

営農技術情報

－畑作（秋まき小麦③）－

令和元年 5月27日発行

上川農業改良普及センター名寄支所 TEL01654-2-4524
JA道北なよろ TEL01655-3-2521
JA道北なよろ営農センター TEL01654-3-4307

～茎数が多いため、倒伏軽減剤の使用を検討しましょう！～

1 生育経過

現在までの生育はほぼ平年並みで推移しています。まもなく止葉期を迎えますが、6月上旬にかけて高温予報が出されていることから、出穂開始は早まる見込みです。

＜本年および平年の生育状況＞

	起生期	幼穂形成期	止葉期	出穂始	出穂期	出穂揃
本年	4/17	5/12				
平年	4/20	5/13	6/3	6/9	6/11	6/13
遅速	早3日	早1日				

2 倒伏軽減剤の使用について

これまでの生育は概ね順調ですが、茎数が多い状況です（5/15現在の作況調査ほ場平均で1,843本/m²（平年比107%））。倒伏のおそれがありますので、生育状況を確認の上、時期に合わせて、倒伏軽減剤を使用しましょう。

【倒伏軽減剤の使用方法】（登録内容はR1.5.22現在）

資材名	使用時期	使用回数	10a 使用量	10a 散布水量
サイコセルPRO	出穂前20～10日 （草丈40～60cm）	1回	200～300ml	100リットル
カルタイムフロアブル	止葉期～出穂始期	1回	150～200ml	100リットル
エスレル10	止葉期～出穂始期	1回	200～333ml	100リットル

3 追肥について

起生期以降、少雨で推移（平年比85%していることから、起生期～幼穂形成期にかけて施肥量が多いほ場では、土壌中に肥料成分が残っていることが推察されます。

現時点で葉色が淡いほ場でも、今後、葉色が濃くなってくる可能性がありますので、6月上旬までの葉色の変化を確認した上で、次の追肥を判断しましょう。

4 赤さび病・うどんこ病の発生に注意！

5月中旬以降、高温少雨で推移しているため、赤さび病が発生しやすい状況です。また、茎数が多いため、うどんこ病の発生にも注意が必要です。

5月下旬に発生した場合、赤かび病との同時防除（6月中旬以降）ではまん延を抑えられないおそれがありますので、防除を実施しましょう。

【赤さび病・うどんこ病の防除農薬例】（登録内容はR1.5.22現在）

薬剤名	使用倍率	使用基準	
		時期	回数
チルト乳剤25	2000～3000倍	収穫3日前まで	3回以内